辰己婦言

へ遠13
1823

特13遠へ門
神巻
1823

序

二上りおりふしさゝら
ほろ〳〵ほろ〳〵ぐど。實
與八ハ。豈酣女
其手鍋提るの。
勝る心意氣を。

明治四十一年六月十九日
帝國圖書館長
氏寄贈

ゟ侭作意のぬ河太川の世名
仮見面ゟ什麼生達磨も古石
ゟ二年子曰君子ゟ中島所
ゟ小経平よゟん鳴呼三ヶ楼の
料理ゟ當ゟ昔ゟもゟ津楼
のゟゟ鯣ゟ者ゟ本み

ゟをゟみゟゟ存の二丁跡す
哀爾

關東朱誌

自序

色好ざるの日本れ放蕩家。傾國ざるうさ。漢土の王貴家。貴妃ど淫婦。無英塩女ごの醜女。薄情愚意に實ども。愛皆皮一枚。戯なども義理一通の通情を結句心中種劇。見せるお女郎の腸呑ど姿の江戸の子ど根生骨を。酔道の真ある手洒々ど一寸劇錄一篇の出ると著し。金の鯱簡版打ざる。諸君子ど覧呈ど。元来戯詞の書ど雖。敢

悟(ごく)の捷徑(しょうけい)ハテ足下(そっか)大酒(たいしゅ)一生(いっしょう)曾生(そうせい)の夢樂(むらく)ニ僅(わずか)二十年(にじゅうねん)。ナソレおもふの内(うち)と云爾(いうのみ)。

于時戊午春(ぼごしゅん)於三河樓見通(さんがろうにみつう)



式亭三馬(しきていさんば)揉筆(じゅうひつ)

凡例

述意

○先(サキ)ヘ雷名(ライメイ)の諸先生(シヨセンセイ)東牧南品北廓西娼乃遊里(トウボクナンピンホクカクセイショウノユウリ)小説(セツ)と著述(チヨジユツ)し。滑稽(コツケイ)妙文(メウブン)普(アマネ)く海内(カイダイ)に震(フル)ふ。其(ソノ)穴(アナ)を穿(ウガ)ち窺(ノゾ)ふ者(モノ)高慢(カウマン)の鼻(ハナ)虚空(コクウ)に先天(センテン)を至(イタ)す。僕(ヒソカ)に猥(ミダリ)に町(マチ)の井戸(イド)を淺(アサ)ましく混沌(コンテン)那落闍羅王(ナラクアノマ)の天窓(トバリ)を覗(ノゾ)き破(ヤブ)り短(ミジカ)オ乃(ノ)小子等(セウシラ)。書(ショ)せんとする筆頭(ヒツトウ)に文神(ブンシン)の依(ヨツ)て今諸君子(ショクンシ)乃非言(ヒゲン)をふ顧(カヘリミズ)。名家(メイカ)の糟粕(ソウハク)と嘗(ナブ)るに辱(カタジケナ)く多(オホ)み應(ヨウ)ずる新市場(シンイチバ)乃世界(セカイ)に着(アラハ)を文(ブン)くり〳〵脊合(ツガ)せ



哥麿筆



豊賢像

花乃

ざるハ覧者乃憎校言を希ふ而已

○此書乃趣。女郎一人手三客乃意味を穿ち嘘と實乃迷悟を示と雖然と雖。東曲通乃覧み是と示ハ非ざる事を

○廓通乃見ハ外國夷狄の如くなれバ言語とおとぶんも不裏くせんみと耳立べ其郭俚を改ざる舟宿虎。私ハ類い其倭て片言乃誤を正さず唯

右容ハ三太郎権七手與つる而已

巳上

唖羅圈樓主人戯著

早稲田大学図書館

愛語

深川辻後朝。ハイお邸ひみ方の遣。両夫と女郎ふ

妻なる。辰巳乃雪手舟ハ

うまで。君お抱とハ上ハ上ぞ。私を帰りを

つるぐ。伏乃用先よもち地方乃火を

共つみ。おくれまい雪ハ

ふの新み。一身外袂

氣風や有ふん。愛手一場の媚家おを。

所渭戸橋赤町辺樽おのく列国を名つけ中にも。古石新石の製造昌。七里迄另客品有。平代橋と共うち先くく一択と。一ト切ほどのいくと指きみ。もんく中に取すぐ。トツチリこへと身に落せど。遊子逃通。サヲサ押もくよう指方みすくぶくる。食容の様八さんと形ちくる。身と吟よ喰のごく。文ふみ千金の角屋鋪

高昌昇生。冬五八通ふ移乃

朝み◆男山ヶ重着さるを通て不通四乃訳合なず。鬼角世界八仲間近江積細工のごく。家み郡来く人扱小く。様留青梅の店前八。屋鋪通ひの初訓楽そう年みニつの本数拾ふハ。節二星の契ふやひらべよ。彼放蕩家異王姑簿亭み面施とく。チヨンく各の楽とかくおごく未至通の負君子。

價安くよく喜見城の如しとぞ。道
両三個の妓婆と扮もこゞや哥の謝安が東山
み新狂言と足ゝ踏ゝと。ホヽ下ゝホ
高ゝく自ら湯の湯気を上ゝく。黄色
ふ湖来み湯女と恐さするみ徒。湖来と
ゐゝく克ビハヨウトウと度ゝ。新しよくと
スツポリと投こむ。ひ世界乃風呂といふ。
三ゝ頃打織の細身指。黒編笠乃おのれ

屍を葬るとつくる墓ゝ。式ハ洒のゝ拭と肩みゝ。
臭ゝ名ゝ結ゝ。或ハ前髪頭。紅ゝとゝ見ゝくまゝ
ナ、根本。客人ゝ。將ゝ私ゝ寛ゝみ礼と亂ゝく。
客ゝとゝく。大きゝみ
二よりの骨ゝこぎんの縒ゝ。文ゝや
内乃座着ゝの程と。みのさゝ間乃石紅彩ハ。
萬客掌とおやゝまゝく。約束乃旅やハ

湖来酒落。あごひみ掴を合ふ舟と私。客とが客とが具合を顔。ぎっくりぎっくり。ぎっくり落ちぬる地獄村。ハムそれよ。チョンくくく

品目

[illegible]段

[illegible]段

[illegible]段

附り あくてん遊び三人一座の[illegible]

女郎ぐるみの智恵競

石場妓談 辰巳婦言 式亭主人著

半夜鐘 ボヨンく

夜番拍子木 カテリく

バタくトうくたる 料理番の廻板を良き

棧橋の声 灯屋く アイ〻の返事

だらくと竜て 船頭の縄 廊下ゟ納く 勘兵衛

屋ゟ勘掛のごく、お客ざよヲゟ美音忽ち

千鳥眠と衰て 柿鮓の[illegible]

[illegible]

舞妓の白拍われバ恰も菓盤硯蓋ふ竹等ふ
姿所ふ等を乱し嵐天井ふ踊ふ料理物
とろ場と誰ひ客ふ呼ぶバ波風見通ふ客ふ
高調ふの乙唱哥を風倫義妻の声小洒落
寝言の掛合ふ親合ふ毎宿の定ふ笹夏
の四ツ部屋ふ言ひ色ふ洒落番のお針麻雀福と
吟寄せ醤酉と渦ふ天ふむ時ふ逢ふ来用事の
迷ひふ犬の男ふさまでふのまでふ

銀倉古市場二門屋北二階とんでふ客と
娼妓の気向ひ寂寞ふ管乃意説

寄合茶番　狸狐川わふ
さんのでふりそ
さんでまふへ金門住吉の上へうもわけは
ぎの嵐ふ
ふの帯ぐるくふのでふ結び越川仕
ふりん掃門ふ入ふ
ゆせん何ふ上ケおぐって
寄桜ふ

八天神様びのさそこもんちよびと白のうんざーさうりをはきさー
私でのつげのくー様のそくをおわり廊下を
さぞかしく廊下をとをびくおまへを
ぢて待ぢうねるぜ。ヲヤ梅
ぢやないかとをおもさんへ着さうの梅
ぢやないかとをおもさんへ着さうの梅
ぢやないかとをおもさんへ着さうの

ハテすてきなおもちゃ(モウ)ばかりですこと

や ハイこりゃ坊ちゃんそれでは一つ御覧(ごらん)なさいまし

まるのんで丸く色その周(まわり)に黄紙(きがみ)を巻(まき)角(かど)を出(だ)し一ぱい張(はり)合(あわ)せてサアといつて出す や ハイ是(これ)ハ提灯(ちょうちん)の様(よう)ちょいとさゝむ是ハ汁粉(しるこ)の椀(わん)酒(さけ)のおつぎ口(くち)もあいりゃ豆腐(とうふ)をこさえる ハイ

ハイ是(これ)ハ大(おお)きな酒(さけ)がよくうすこと十二こうをとじやご弁(べん)くまでせんもうは是(これ)で一先(ひとまず)ト新(あたら)しい盃(さかずき)と取(とり)かへる

いつこゝもモウ(ト)新(あたら)しい盃(さかずき)を出(だ)す や イエ(ト)こんなめんどうなものはいやさあ是(これ)ハ。坊(ぼう)ちゃんへとつておくれ(ト)渡(わた)す 圏 そん

なら/\体(からだ)のこうあるいづもの通(とお)りまひせう(ト)や 承(うけ)

トうけとつて(ト)ぐる/\まはしてござりますハイごきげんよう

出(だ)しの茶(ちゃ)碗(わん)を出(だ)す(ト)圏 コレさんきち富士(ふじ)の煎茶(せんちゃ)

出(だ)しのいゝ。なんでもいゝの大福茶(おふくちゃ)の様(よう)なのを遠(とお)ねく 圏 坊(ぼう)ちゃんおぢやまをしてまつていらつしやいませ(ト)や 承(うけ)

こりゃ/\ご苦労(くろう)ご苦労(くろう)ムシヤ/\ト飲(のん)で

ふく行いそがしく角（かど）の附木（つけぎ）の看板（かんばん）ちやちんこその弁舌（べんぜつ）化（ばけ）の料理（れうり）の鮑（あはび）の貝（かい）はやひたの生身（いきみ）の上（うへ）

志（こゝろざし）も料理番（れうりばん）のやまもり。もくねのうちざんてい世界（せかい）にのうひをんざらふさがざ通（とを）ると云（いふ）もの。只（たゞ）くねのうちざんてい世界（せかい）にのうひをんざ

いとびの如来（にょらい）きどもも世（よ）そうまうちい

切落（きりおと）ろうと奉（たてまつ）る拝（おが）んで連乃（つれの）じやくいこれくうそく

ふれそのふうと大（だい）のその神（かみ）をおまつたとく

左文（さもん）と五郎（ごろう）が生（いき）れて来（き）よ新（あら）たく。よる部屋（へや）

化（ばけ）物（もの）を働（はたら）くふがふうとそのくの男（おとこ）もや祈（いの）そ。その人（ひと）の

ふれさ。このきれが津返（つげかへ）しとをくさアだうくしんとす紙（かみ）ざ

とおさアだうくしんとす紙（かみ）ざ

こぎれてふんのこうさアアそはそうこ

吾（われ）ざうこ小（ちい）さくあくたいのふ

ちようびりくとあつくるのふる

ふそうのことといふずなくざのふる

ざきのみがゝしと動（うご）くしさとそうこうの附（つけ）木（ぎ）と考（かんが）く

皆様の魂をそゝぎ給ひて
のつくべきあうけ
㊁ 其後始めのいくさ
ざけれど又ていう
ゝてこんなせゝ
いふんでせう
う〳〵 ㊂ 一ぱいやりましょう
つとあとも
まゝ
小

とんぶつく相通ふ
今始めのいくさ
橋の大ゝや源さん
ちやとりまの
いろ〳〵
おめでとう
実にとてもいゝ
あゝ〳〵山村仕舞

通りまで送り出す。客人はさっぱりとした
もの。待たせておいてはすまないと
おめくり「盃」をのんでおまちどおさま。
できました。どうぞ。
古帝さん新石切さん着う家人の子供が何人その内
よろこんでくれるのが一番うれしい。
の内の娘さや宵の内
大入繁昌がいちばん嬉しいと。

志ぐま「狸の穴の宿まで送る。狸は大きな睾丸の
ぶら下がった男の尻を切ると。
小一年ごろ六十日。月が出れば白奥乃箭と二ツ
半ぶら下がった天秤を担ぐ。
狸ばなしでござりまする。是程下さる客は
心ゆるし呑込みがよくて安くて人もよく
此扱が抜とうなさる。

仕ずく意味と言葉のかさく久自
の振るうまうせうとふく大将こう
さるのござせそ
ろうくなり 三 初めくの母
ことのちやづをつくめくやぬの心のれいうまうこと
程でで。如生めくといつてさア。まそ
ぶつくこのちろふとちろくんなやくて。
こアやアとくがまでこのうへ初ぐ新市場の
母国屋と申ふりろのさそれをもやんな
添くるまでさア。

すろ初くやぶりてヒホニ考ぐくと初とやぶ。今く
ぶでと法の者衆(くぐ)とりまんざうぶ。ほの手段(てだて)
とおめくと時(とき)もんでせくせんぶよまやそこの次合(しだい)ア
うなるまと初て女ふ子(こ)のく劇(げき)くなるまと者(もの)めく
ござまでぶりてそ子(こ)のくをこんなまろれて生(せい)とく
まくうとぶぐろふと狐んでありやとトの次第(しだい)でとろれる 四
ておりやうそんなとア受(うけ)初くまさ
有(あ)ともヒろぶめくいでぶりぶ

みへてるうちをそんみまいさ
1ヤサぐふりて沢合ぐ物さ
ものをいやア掏ぐらしぐ沢ふ
さとぬるふ志ろとんぐ
でとねてぐざさ宇物の
義理うかんぐ郡中さ
くりやアこんな物ぐ
図 ソリヤアなぜ図 ハテ初仕

て人ごし多けりやアはふ六あと七あハりとこぞう
又ハちんぐ仕さぐんの病をぐ今ふ
ぞもむりっく人参の代ア俗八銭八用ぐ
うぞ事ごとうさ今ぐうとうこれとりつく
事やさうニ物の方へ才ぐ沢合ぐ物
ぐふとりやふ品ぐ志ふさぐ
ぱとをうとぞんやア物
うとふいがちハとハ不便ぐとぞ

そりやぶつそうとけをふハ
ろせをでもあびハりめく 図 さついきをきそふ
ゐそけつ〳〵行るものハ 出し一色と欲ふ緑切艾あるさハ女〳〵ふ
ほうのかゝ幼火ハろんくとゐのがうハ唱行なつで十ちくとろつくふぐろうりぽろすくけてあまつふ
図 まあのろつこサようつんみせつ 生を 図 よしく
遠ねゐの当中ぐつでらつろうとうんつぐほへでふそのち
のくで何人せや 図 まろうとさてふんぐょうく改て
ころのせく 紙へようまを別ぐんらそのふとろう出ぐ小判又お

みげ出て 図 ハレまなの兄とろのくる動ぐつく約ハ物のおつて来よふ
をつまぐ男ぐ布のくぐ。毎布をこうのてよこせハレテ図を
大事ふろとろそりや 図 紙へろきと洞すのまを行をてる
ちつとふれるそ行く 図 今モウぐつて約ふ夜ぐふ事サア
行ろふ〳〵トろうとまろうさとう折〳〵 指の当猫ろ友達女
印絵画のまぐりすぐつとふぐさげ 封筒 大下名の八文字淡地
そさみなの娘しぐんぐらハひらふく世 真紙をなふ
みぐつハニか ぬるひろで平うえ結ハ句ハ袋とはまぐろふまぐろ返よ
ぐろとまろうと友まぐかく帝下をはまぐりてふつ
正面や ハのくぐや私ぐ地で二部 私の兄見でもそまて

おすくぐらぐらまくの口ひ切ごつようそうあ おつとしどや
（下まぶたのふくらみ）二上りと飛びまろ 圖 おやこさんこの手てをようう 図 おろく
さんう這入れくな 圖 後よと頭んとまれ 又 お豆ごてくぜこんぶ
あろねをつけぞみくよ 這入（はいる）ぞヨヤトをてアて つけて這入 若さん。
なぜぐれまでお出なそる 目でござまをよ（上瞼のでそぐろ さんくだろアト
そろうぶりくとしてもやぐで 姉まと活いであぐろ奥仕ぬく抓ちりくとをて出そ お角八二
ふくうてもひあぐろの春くさく 圖 々々ムタだまてこ 圖
口内炎をいぐすまをのいぐをござ 圖 々奴う 圖 いや
ぐれ 痛ぐでもすこあひぐろ 圖 々

ざのよ奴（やつ）とぶんぐくお部屋（へや）じゃねョ 圖 そんなお出なや
う 圖 きついあれさ（トさせるで 圖 又でと来代圖ようハ
そろぶぶぶいと掛取（かけとり）が 圖 又でと来代圖ようハ
いろんなことをなる称（しょう）の（きり）いお豆（まめ）ぐ。このち悪（わる）くて金（かね）
おまへまョトそさ（トをさ） 圖 ヨて本（ほん）
ようる客人（きゃくじん）その者（もの）ぐ。水車（みずぐるま）のぐく。抓（つね）をあべつとキまこと。
コリヤ娘ョアイくとつてみまし（こびる）体（からだ）の悪（わる）ひ。仕（つか）ようと客（きゃく）ぐ。そろぐろ
くして待（まつ）ぐろう 図 ヲモウ ゆうあーい（ヤット おそくなって）

みなさまだんなせくしやうてゐるね〳〵トやるとあちらこちらから
[illegible]てあすりくうまりさのかんざしぎゃうに移りくトきに地角さん今私の客人ハこれう[illegible]
[illegible]何のそつさ大川やの[illegible]吾う大[illegible]広の前比名とまつて
いる[illegible]ハ[illegible]一寸のこと[illegible]
[illegible]アリヤアお石さんの客人ハさ[illegible]二人[illegible]くせ[illegible]て廊
下[illegible]ぐらいぴつそりやぐつくいるゝ[illegible]ものをこと
くさつぱるのよ一枚さのことを[illegible]
二人のぞきこゝろ
曰

後堂貧客三個交席殿

中度補三人部屋ゆさく座敷ハいまさ女命の着らぬ絣着物の
屋風の肉さ場を天窓ぬけさうこえて声にもうふんん
ぞう返ヤ[illegible]のらぐれ切り来ぬ[illegible]ハ医者の内者ふ[illegible]
ろハ張仕景が声色をつかつて[illegible]ハ医療[illegible]阜部[illegible]
解のことをそふんど[illegible]ことをしよくさ[illegible]
書言字考猪みどばかつさうぶ
片達[illegible]ハ夫ハ十三時ぐらゐ[illegible]
[illegible]七ツ頃帰宅一小
の女子をメまさ麻布へすうつ
吐逆[illegible]この[illegible]の屋風ヲ[illegible]
の右夫ら人[illegible]ハ[illegible]服[illegible]
さうみさくまりさぶんの大さ[illegible]

めんちりせのうら川ぶ女の羽織ハ四ー
やとよ紀州くだ織の一丁うら茶のよ
返ー小紋のひなそこをおろの海ー
ゑハ大乃芸ヨ子ろくみへろつまま
のセルボとうくらせ有り

東吉 医者さ多乃吉岡えん次と
名ろうべーひろ名ハ
こちよーおろのさぐる
ふうさぐら有りむーゆうふうろ
だぐちるぐこをやうりうーしんがる風ろ

片達 隊屋の西雅人娼婦未至昌何の習ぞや
鳴呼甘葉腹中大ひふ北山乃豊心丹ざ 注ニ
モシちりと吉ひせうぬぐふ乃ぐ

ありねエ「あんこ」ろ逃雲ふうとまでざ裏松ぐちハのまうのだろ
ノーよい東ろりさ今母の「掛ゆきは」の髪がちさげる「付ケの
いぐるべいぞさの「西」さでナ大浩の「そりぎろ」ふがんざろ」
めくゆのざぜ「居」うさねエ如斯不利さんハ巴夏を配者
さの「揚さ」「西」吉ふるめくまれさま「東」モシちりと「源右ろ」
と「猪ろ」「ここせめ」が「猪ろ」ふ「ゆうざ」「吐」そいくく
ふざろ。馬の首ですろのさ
ろがらなぞこナア「てうけい」い有りろ「東」吉をとすぱいめく

まず山家作りくふうを凝らす。
わしき世ろ「吐」を土産とす。片造さんちのとこのちく寒き世く片造小枝の
四ん角でハにろみがいろむ友ふとその下へ入てそこよく絵てこうしろもの
おこそてこちうの八ア十山屏風ハみんな婦画く家紫花瓶南
屏風くあり。
ぜん頭ぢぐこの風さういふ世ろ絵さへ。
私ままぜこ世ちぐちら油ざ売
トキニ「世のさ」と「酒」ふ「多」と「出てくが下治モ多幕ハ切
めく。トきろろ吉みくにうを
さろろくとん面一

ヨムト有りくこいつて。奇妙な婚姻
トカふさのこおよりのうて面ろうまふの
の絵のくるものとあとよりもとうてる「末」ろんぶくちと
いき山とまうぶぶ法のハナふふぶ。「西」ごぐぎと
「の世」くあるとんぶの実ぢや「細工もぐぎ」
「古」ろいち妙ぬやお絵くろいさ
俗物ろろの別世界ふ「
とんさプリやろふとも妓婦
わくこ下ハふ婦人ぬろ
ハぐぐ相ろう意ぶ出れ
あご婦人ぬろ
勉強しろおろく

醜女彼僧よ云ふこれぞらふ東デモこのファざら
まつでとれまぐろうちがのハ首ぐ妙ざ吐逢さん地めく
又さう凹大きホサ儘細工のそるぶ南風松くてさいよ
首ざ片そいくく妙言くコレけ松とアまつ吐逢安く
めり松のちめの吐四平松名代より川深の客くまよそて
と出てある吐四平松名代より川深の客くまよそて
出そふそいて西つざ片そいくく妙言くコレけ松とアまつ吐逢安く
大ひある。宮ホ南西子鳥ざ東宮の比ろ後とん
ねエすろーさざいくざのの。金の細の吉も今私あり

ちやア君松の手藏天宮。嬉系河訴河そろざ
片そいくく妙言吐ドレろさわく面ちれな
後ざべちやア松エざ書潰さきろの掃切くざーきと
くろけさ西つざ東号そでもこの乳般さ私言ざらふ
ちやーアイそらでこざ逸ちやア掃面の地震雪宿地つ
こそろ雷こいつざらふ行ぐる守そいくく妙言
く好でもエ方便を男ひろ行ぐる地震雪宿地つ
ちやアぶんな男でもこふ結号のハとろ筋を

出てくる一ぜんめしわってくるのサ小便と
するんでござらう 吐 大笑ひ 片 コウ家の内とめんうまうぶる
サアーおがってあそこいてあげをこいつるぶ抱つくやさこのぞう
角をねこその酒をことぶ茶の湯の方へ
落ちてきんもやぶ空超びのあのそぼーざぶコウいう
わこそこぶけ須の世界に行ってまこれくなるこをを
吐 イエすごござやすん又地獄へ同居致しもねか

片 イトまわりてくる 片 活溌とする五六日いおの
てき両三個の土瓦とそる学舗のゆうぐりと
北方へ飛び去ぶこでぶのめんぶ
ちぐ不面とトさこあり少く 片 ぞく定てサあり少く
ハ地そくく好よ。ぶりく 片 九日と抱わくどやこせん
その年國も花物イヤモ私くく 片 おきゃーのぐ貴とまう出黄いろ
ぐとろろが降ってみまうの山内東吉八一向

[illegible]

片 そこそこ両度迄よばれる歌妓幇間こ
まさ虚誕を交ゝドントナウレー磴車がゝり返る
のたゞんく。流石の大廈高堂士佐の大住居
だゞく。イヤモ男僕大酩酊行法のまゝで屋敷
入申と吐 そこそこ抽出の名刺の確論がつし
申ゝらふよきのうぶつこうのハすれども行ふ
いつまでもまあゆくゝおそ
ゞく如ざそりくとだろう あらせうぢでる東まハ句倫
先刻からと大てれやくあくにの角ぐいことゝゝりしから

東 その騒もいつ今宵ハぶぶキウたいくの筋
ざ吐 初会迚ハさて行く取ぬ。むちよあがつちこ
との、ぶ店のめくざ園 おもしろ
、抽のさまの出ぶこ乃抽でんもの菊そでくてぐ
生平仕てくぶらふ片 個レハものあうことと初めらふ
東 ささいくアトちんぶぶコウ
とてとこまのちやアナ。彼のナウレ吐 そ行ぶしく片
そこ「耳ら」と出なさ平く片 ここやアおそろぐ

そんなことにかまう先〻［東］レイこゝろや［三］［吐］［片］

チヽテレ〳〵ぐどゝん

［吐］山所風幕乱び三重

ぶどんがら

大屋根猿木の立木有り［東］蛙の帰る寝るの笛

［吐］モウト「七湯」とまくまくわく走る「ぐる」と取て三裸帯

をいごこゝろ「もやかあさ守ご亀角〳〵せわ立

まで［吐］頂ハごまざ

がまとくみんのゝれとけまんへとハ撫るまさゝえ［片］こいつ

ゝのこゝろおぶこふおゝてゝゝこゝろ物の

引ばり［吐］とらくりごゝ

○一解け里ゐてハこゝろ春れ遊の人物多〳〵けらひのこと

さびくおれご関ゐてもさのこかゐごされごを金て

うさみごきと五さんご扨客ちやこゝしてを一向出のは

ごせこまきいちくの里方若い者のご同をとそうく

出来り扨宝りうやこゝろ

行るそもすち岡歩ばゆご

こちらの支痛うそう経

つこよゝそのよ屋風とのすくゝ東ちがかうつぎ

のま称をてごりくゝ称宝ハ片達ハ坊主天窓とあの

出てくちゐめゝの大さうご吐経ハ口土の半八が声色ヨまひ

活さんさよやんさ扨れごゝ

ゝうくいこうー暑を

[illegible]
[illegible]
[illegible]

己そんな青洟と付くまゝ
いへ己そいつね世話ざハつ
ても忘れ立ちまゝ口をあまざ己そより
く厄やうまいぞふとを去ろ
己扨さゝだ工四一ハイ捨
かあげの美イ者ぶとうきだ
八幡鐘のゴヨンと共ふ寺ぐの鐘ノ落萬帯
て霜機橋み向く滝青乃に吉ふ朝亜あれバ

眉尾と若ふする七ツ立ちと
愛侍受朝行茶と薄ぐ舟乃青梨ノバカく
馬麻のもゝふそ其傾城の心の内ノ乃鳥
も鶏を悪や了先やう。裏表。

△前席乃客心ハ只梅の色獨呑ゆとそぐ傾城をかこうて
紀ノ守と女郎を連で廿くゆるのざふぐ高慢を
きたがる風そを是ハの類ひかくそろ
己がノ〳〵ナントりゝなりざる

△後座ニ坐ス三人一坐ハ行ヽなく むづかしなべ
ちやうちやう自慢ヲ主性高く唯通人のにまぶ粉を
しく惡京ことのミ集ハ寒夜〳〵衣
とあいぐく延喜帝ゐ〳〵あぐ〳〵ふざけ居ル是
あくる日髪結床ゟ〳〵

盆遊ひ部

[原] 七月ハ
かねうち場合ハテトうるけ
余り多ゐ遊びヲさらひ小判ゐ小利ゐ三ツ四ツ揚渚ゟ
さるいつくしやみ〳〵むつくる
る客く年ハ年多ゐことに
夜ふけ付うるぐの小袖ゐ
清兵衛細工ゐこのまゐうの
の音ともちやんと猫ぢやしう結び金カ〳〵

のおさげ髪ゐ〳〵ゟ高人のひとうむすこまぐ部屋住のて
ゟ〳〵ゟ小便所ゟ〳〵ん通ひ〳〵ゟ
ぜひゐ小出合ニッ〳〵すてぜうふ有〳〵
ぶんぐ〳〵ぜう〳〵ぬるんのよ〳〵ふうとすうる [原] ぶうう

雪でもふりさうな景色ぢの

のむすこ [原] 様面突ゐ紙袋さのく〳〵
さらーのよ拭ゐ働ふさこ仁輪加のなぞ入
角うのゐのうのまうくるとさげ天窓ハしすぐ仁のさいと九
まるふちし兄さんく〳〵客人ゟ〳〵ゟ
ありいうとまし物と合ひて
くこくぐ〳〵ゟの画賛と
モシこゝと色ゟ女所でござやて [原] 今宝暦小書
て貰ふくうら義理ゟ〳〵ゟの贊とゟのくぐ [原]

ごぜ　娑婆をすつくはせて
仏法と貴僧仏法と
雲る。法は五尺のか
と思ふず。柳は緑花は紅の
両よりのく月は通ふ
ナトぬぎさる坊さまの程
原こそつ面白ひ
ぞふ。道理先生
ごぜくす。モシ先生様よりも
でおヨ坊やつとのいたのちと
ありやア友達ござ一ト
七ツるぶ。ヲヤ小僧つき合と
さ稽古あつさトまるの折ふしてお足ろこすく
火持ちよく庚の申へ五言絶句と
かくよ玉屋あるの松のくぶしの
さんまんでござすめつそ

[illegible]ちく梅と云[illegible]
ぞふいてぐひの[illegible]
ようなせきのでる病(びやうき)をなをす
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こうして全きみのちゃんぞうこの次をくねエ。が浮
世という面白い世の中。逃
らッ。抜けが難しくなるとやッ有めるとこうつさがりよの今と違
おねがきまこしゅんく。ありつ口ぶ切ることすりだやとくよ
ぎまこの小判屋のぐつきまし
ーねエ。メガ去年たびひ
ぶつて汁片腕ポこお金もそのろい久々ぞが蚊が冷そこ
字のこのろうに抱きすつく幸抱をするまふうくけ頃ハ
そりもの腕へ彫物いろうふ消こ友達の場よりや

とハ思つてとぴやうく改ぎまこせこと。ぴりとたき沈み
られぞのどやアムびれるも赤ぐうだ生まりぞやふ
きするーさモタこうあのちや遠ねエこまんそこで有
ふろこのちうう突ッ消べエトそれ
トこく焼けこうそそるやとあハ
ぴろうきまあのーきぐうて 図 コレヤ
線きぐこせこのちの心とこ赤ねうふ字さんりつ
とこまをこのめそぴてこのやま
い。線きもぜんさも着うねエでこまるのんこ立トうりむひて

にはゐ消おとろ歳ホ○ろさーや出雲ふそろ上ほさられく男一員、
大工度の四ろいてさこ
ろ場うーさきこのの㊁ホンニモタクさ
さる時のの沢七妻く世せバ始めくろ優当も体るこの
くられどろんな支物意がも遠ふるのちやろのまつを
急てめくぷさこぐ弥くっさ成やとめ工志㊁志れこと
ざア㊁そをでひくお㊁やまひ工訳を安ざふ、
優をさんとまふいちびやざみんせ一れっこつふ字、本編
ふいヨさこう雑くさざほるる㊁今更抽あーう仁ふ

実ざすのらのといさとが行るのんでご世くすっ抽のぐる
つまを新宇でひつひ並妻ををはろくっ。はくふ苦愚を
抽くつくさ抽をと又脚物ろとをとっぷうはつるとをやや
おとも何ともいふれや世人高ふ並ひるすりちや優も
さらっぷろつとっ少を世一下成程ままふ風のいるえ
る通でもろべごろ相立とが行つくふ抽あくポリふ
いとっぷ今ちっとろひ利てをぶふをあまり去ぶ足
こんとそっぷ上い一回くく抽ろ人今更ろひごみ並ひ

こんでゐるその間あいけ
つぎ本行ふ
ぎちのめさ △は内始終両へぐえまり 傳り二丁ヘ
られ白ゐまよごつまさまこ
まさつーご此へ 五 ア 是
さとごむせくまさ右
内ノ貢尾をべ小女ふ
出てくのとは袋の間
こそくの風ふ
ふあるくまさ上う品
のろくんまちやアよ
品ひごやうごや新市場の橋のすぐ
間へ新川通の茶ごといふこまをしまのみくる
そふご。ア あのをうえいこうごふトおぎれく
是七ふうさまは亀尾井戸ごち
品うくまさだまこあ
仕掛のもうちまくかん事
の必へだると両方ふむでゐる ○ 二上り
トまうりてまの桜通ふ
おとあげこぶさをりくんで
ぬこれさてかまあ
二上り 傳り
ま三ノ此へ五アまで
ふ
ふ
ふ

夫ハ判見ヲ主ト
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

られて行つまいそろく格のとくすれ
ぬさる料理場のうすむシのつくれ
るるふつふつほけ髪ざう上ゟ死なも
行をあくふえんすつと已ア王宝つがゆいこふ目とだらく
むつさうサヤぞまで堪忍(かんにん)して受(うけ)てくれ升立 兵
おもりる
横目でおろり已抽斗(ひきだし)やア吐(はく)るめくうお角(かど)てくこう獨
すらやーとぞふで納(おさめ)くんなせく兵いやざ已うせず兵
ろせぞを已そうやアまだ(ひきだし)奥(おく)でござす兵奥(ひきだし)でも
うつでもいやざらいやざとの(ト様のすう向き)ホ竹あろう已いらざア
うちあつて(はまい)仕舞ふそんなおとぞろるやいく

みそるかうつろやせん兵うちまを伝のものざうら抽
げつく切くり毎てくろ已エ
モウ日もやどおやまつさらぼり
(いんぐわ)因果うこん打(ぶち)エおぬされてもぞふてもこんなこと
抽めくまちがつどひ
おめくづくんでほどくみづめ
程(ほど)ふうやづあくいぞヨウトちの(ト様の二ツも仕舞ふんでぬもの
たくくを志うろ抽斗(ひきだし)奥(おく)ぬもぬだろも
兵ア(ぶち)不面癖(まよ)う迷(まよ)つてひ

前立の部

[着者] 衣裳其色と言ふこころは着物の模様三様

さんと拵ごん [女] 取りまぜんと [表] 拵え

る [女] つんこふと今夜は二人ぶり [表] 拵みるつもり

もとうくいふ [女] 御深ざらいふ [表] 奥座

チョシ [医] イーリ [娘分] さよふ

のひろ [医] イエぬさごろで [表] せくすれ初参男 [女] 三人

さすがホうる [女] 情ある [表] トリよう紋を着くれの [医] ○ほうのイーひまつほらさへ

あざみるかもう魂天外 [女] おそ

のせうろ辛苦をこつまつもとちつ

拵やぢろ目色ヲめすこ拵食ろつ

詳ろれヲさげさせてロんくまる者

ヲまあれバぞぞそそきおさせんと立面ホうろもぞうし

[医] ヨヤ〳〵いろそは名てくろ [女] まごごまもつこうち

ようなアレあつ毎ひこやアなんざエトお名ぬ

拵えくさごろ [女] つこ弟もこそすてく

鼻と鼻突てどもつこもつろうの見べはこそろ至て [唄] 両人

ヨイさむいの敵ざろて混純 [娘分] ボヨン [作者] を

乃(なんぢ)ハ是(これ)ニ二十(にじふ)ヲみせ〳〵 娘(むすめ)ヲレ 母(はゝ)もぢ〳〵るよ 大ぜい アイヤ〳〵ハイ〳〵ト

もる〳〵月(つき)を通(とを)ひ 客(きやく) 長五郎(ちやうごらう) そ(ハ)ゐ(ハ)ら〳〵 喜(よろこ)ひ(ハ)ら〳〵 廓(くるわ)ぢ(ハ)ら〳〵 花(はな)ぢ(ハ)ら〳〵 ことなの下(した)ヲ呉(くれ)ますれ ぬ(ハ)ら〳〵 ぬ(ハ)ら〳〵 三日月形(みかづきがた)のさゞ〳〵 ぬ(ハ)ら〳〵 ぬ(ハ)ら〳〵 ぬ(ハ)ら

さてどりゃ抱てのコリャ抱てござれとよござんすト娘も歌まる
ちごどやあやまりまするとねエさまやいまいましやそれこそ
いんのちやらそつぺんちやんと又抱ての唐人の
ヨットまいまいつぶかつぶチ〳〵チヲれコヲ
ろろめんやア湯島の時分ろうそくのふうをもかうねエ
のそこの看板ハ二丁所あの
湯島のあくげのやのぼりは
ござりまするト△さてはなハつぎぎわの

まつぶどうエ風そ又ろうくぐつ
まつふ□モシさうく女ハまだござりませぬ
そんな体能く▲吐客一躰二両ハつるゝれさせ
せくろうそのやうな武ハ化
ノ下の月とろろめる
かそ八幡乃いうあひおこぎ
わくのもんぢやエ
ちやそこのとろさ
あらおそてゞ耳ロ
ぐんでござんす

[毛]ナゼ。[区]ソンナニ酒ヲ呑ムノダロウネ
[毛]ソレヨリ外ニ[区]ナニカ面白イ事ハナイカネ
[毛]ソレヨリ外ニ[区]ナニカ面白イ事ハナイカネ
[毛]ナンダカ[区]ヨク神ノ名ヲ云ウノヲ聞イタヨウナ[毛]ガスルガ
[毛]アノヤマツミノ[区]ヨウナ

るってそれやそれやエいつぞやと行ってやったのさまざまと彩色
さらばいつぞや乳ろこうで逢ったからの事だ打ち
でご挨拶ごとごとをモウ座の内と始めのうのことのみ
ごみモノくイフンでも思われぬぞせこんなふうと往来へ倒
れの様でもけしからん一回をおくれさこうぞうれぬぞと便
ふのの小娘をさん斗りごゃみホンニモウ
いうそは情ありよ上方のオヤー[朱]ハ始終
いやぁーあらもわぐぞふとるんごぅんバ又各どう
[illegible]

ることをおうもとぐさらごやさくだんごろ
ぎ乃寝処ゆえ。女房の有ること古狸やべんく草ろ
かやう牡。閑乃これまで女房ぞと思せてゆえべエ
[図] アレサ大きな声ゃまるきんのオトちょっと声ふるう[朱]行そのまも
借ごまごらわくそりやそふごと気ちく彩んごとを
ごすこくれる。ぴっ年の様ごと志のぎこもくて盲て
ムさぴてんこ小娘の袖ぐ漸く振ぎ[illegible]
うんふろ人ごう初年ぞろ[illegible]

さう祢[ヒ]そうするとそのごう春四ごごろ[ヨ]そんぶつについて
そのがうつごうけっぱめくもちってるフレ新川八客人の[毛]
ざま[ヒ]フレ友そトさ[毛]ナあつごごふさ[ヒ]けごろ内
ふくふうらいろいろことほうろくそノマア耳をごーみ
トさうめく[ヒ]ノ[毛]をくくこうとちごうくて[ヒ]トいうふ
外ごまふ級ろとらんてごうさいけ兵全八ごんがまわくうらっ拇めく
八ふうのと待ていてョ呂をでごふごごう方とちっとづを
みとまふこまわくそふやわくきやァ山さとく拇め乃訴く

おくってをれいまっわまやう移立ウ[毛]そうァ[毛]ふいい
そうつが有りやアふ程いう宮ふ
思ひ行をいくわくこやァをそ
ァの春四ごうらまふるっョ拇ふ
今うら二重間とち今ごふ[毛]べらぶらいふっ含
らァいコウトおろつが訴く呂をっぷ。そ
又こうちふっさんごんがいのくァ。
さぶョーて度祖織とうごさ

しやアねくう 由 アリやア ふぐこんアぞぐぞ 之 そつくさまでござるよつて
うらすみう客人ふをもちおだうりのてあいさつコリやアぞてとを
初仕舞(はつじまい)の客ござらちんとおくひ 毛 でくぶつくそうぐ
かんつとナイ仕とおさうをあくう。高雪(たかゆき)め立会(たちあい)まあるやアイ行(いき)ござる
已 今度(こんど)の人(にん)みやアイ行(いき)ござるぞ。ま二おめくかくさんの庭(にわ)まで
出(だ)ござつござ 由 まごよのくざ アとうまい時ふ振袖(ふりそで)の娘(むすめ)を
ござらぞ一度(いちど)くらいの 之 おすんまへ能(よ)おんな
そうろう上 毛 ちんとづく合(あい)そふござ 之 そつござおれ

おめくちんとおくをはけふ 由 ふ後(あと)仕舞(しまい)
ござる 由 やくひだアちてくれ 之 ござらぞ仕舞(しまい)
一番(いちばん)ござアあ 痰(たん)とついてる 聖(ひじり)所作(しょさ)やア 建(たて)おらおくち
ござアたいやイ角ふあてぐつくござ 裏(うら)ぞうくまとハ
ちわくのさ 已 まごやアさうぞうぞ 之 二
更(ふ)うくそんおこうおがんふ立(たち)ござ 毛 ござうろ 寿(じゅ)てござ 已 そんふ
ものくをよくおくをおくをあくあの延(のび)
ものくをよくおくをおくをあくあの延(のび)
ものくをよくおくをおくをあくあの延(のび)

今ふかうれさ頃おさらばの仕様と有ッて
つさやう実のうさんのつづらまりハ気そうつ
うくれとつのりちこうちと思って月そと。ねめくもうト
母さまくうんみさらおくまやも母様ヨ[五]て抱れも
様御ごと志母か[三]アレそふくべそんな楽いことを
とうまる何も夫程ー世こびさとしている[四]てめくが
そんなふあんで気遣ふみ。母さまの程不孝をしやふ
ひ[ママ]おれが気でそつまくいんとよくく

一飛がまくごらくとうりむひくさぐ[三]こうしていろんなことを
思ッて世へら。常ふ引抱ると愛と思るヨトきまる[五]て
母様御ごきまる[四]てゐさへぐくぷさぐ
モウ抱寝ッせちくらぷのくくの受けると愛と思るヨトきまる
そふいさらぷそんな人ぶまて有ぐらの
[四]何のきらいとぞ有のんぐ抱いりりトノ
ふるまるめんら眉間こんに三寸すびぢ抱ぶつ四んぐの出
双庖丁ごぷごてう後とあぐるのとうみとうふ

今夜ハ留まきア【と】屯ヒユ風があるクゥ又こうもち
うづどぐらう【長】志ま手こうつこ【区】夫ぐらぷ
移さ移く【長】そんなつぐぶをみろ
トこうこうを例ひろ斧中合
ちとこまる万を早四つの陣【船】ハイお迎ひぐ
ござりまと

追而後編ニ委ク述ル

緒向ハ未だまでモ敷余まる風つよひつゐ不著

ねつふ【区】ホンニ例ふ
みるのも所人をのうせつ移くこうこぐもつ
ひるのうちにハぶふうさでいまさ【長】ぐ移ている【区】瀬さのぞ ヰヤ
移めくイ移なさるう。こそみせ【長】とまつ
ゆん屋親今ぐ子ぐぐ。こ
うらぷようぷ。そそく移れユ【区】いもぐョ青のわくすぐ
有ぶら。移ういや志ろ
さういろくて様【長】コレ
移さ如ござ屋ぐまる

作者曰

石場妓談　辰巳婦言　大尾

戯墨三人戯作の力にて古石新石を突き
合せて新らしき普請ぶしんと成なる事ことを
ごみ五ふせつゝと雑石ざつせきを土台どだいと為なし
あく降授らくと庭にわ
閻魔まふ石をもて宵待まつ清あかぬ
怪石かいせきを安やすんじ「コシコーリキ」
ゆ者ものゝ方言ほうげん

能面ノ今ニ鵺ト石ノ橋ノ石ノ石ノ石ノ
ノ出乃口ノ六ノ石ノ玉ノ石ノ石ノ石ノ
舘ノ風流ナル赤木仙ノ羊ノ石ノ石ノ
子モセヨ赤一部ノ石ノ石ノ石ノ石ノ
ヲ打振ル雀野暮ノ石ノ石ノ石ノ石ノ
ゆとこ兎五十石貫目内一巻中ノ腰ヨ
ちょっと真ナッノ石ノ石ノ石ノ石ノ
絶ノ直ノ主人祭和樽述

羽根ノ石ノ石ノ百増ノ猪牙魂ノ石ノ
み飛ぶ石ノ石ノ癡夫克領城ノ石ノ
ヒ、是銭術ノ徳ノ石ノ這箇先生ノ石ノ
燈灯ノ光ヲ石ノ石ノ石ノ石ノ石ノ
毒言ノ麺向ノ石ノ石ノ石ノ石ノ石ノ
ヲ真面ヲ其酒落ノ石ノ新地ノ瑞井寿祝

式亭門人
楽山人馬笑

再笑ふべく又以書ものこのよ
お人畑より跋文を謁メ即三馬子へ贈ル事
一うり。

辰巳婦言
後篇

通俗通
近刻小本一冊

傾城買嘘八百
近刻一冊

晩日の月と野句ふくふ女郎乃まとより
三品角ろ玉ふ焼乃砂ろさ一すはまんざ
小冊こて女郎の心在涼川子客の公乃わさ
ふ十八番語のうそをつき出しうるまへ

当月梅乃花ろうち客と乃る手文の
うそまことと金と色とのてまんごと
一冊まの楊子枝乃句く四本ときの辺子
いきちうんとちうし

式亭山馬先生
楽山馬笑